問題山積
新ゴミ処理
施設計画

「対岸の火事」では済まされない

「市道」計画 周辺町も負担か？

彦根市・愛荘町・犬上3町で構成する広域行政組合が計画する「新ごみ処理施設整備事業」で、急浮上したゴミ搬入のためのアクセス道路は荒神山をぶち抜く（堀切かトンネルか）大工事計画です。この道路計画は彦根市の「市道」としながら、ごみ処理施設へのゴミ搬入路との口実で、広域組合議会では、周辺4町に財政負担を求めることも選択肢と回答していることから、財政負担を押し付けられる危険をはらんでいます。

問題の道路は概算で38億円とされ、当組合条例に基づき試算すると甲良町の負担は2億85333万円と莫大な金額に。トンネル工法となれば38億円ではおさまらない恐れがあり、施設建設費（約200億円）の約11億円と合わせ町の負担は更に増大します。

25日投票の彦根市長選挙では、「新ごみ処理施設」が一つの大きな争点になっています。今ではこの計画や学校給食など多くの事業が「定住自立圏」によって企画・運営されているため、その中心役である彦根市政の動向は周辺町に大きく影響を及ぼし「対岸の火事」では済まされなくなっています。

新婦人の会彦根支部のご了承を得て、同支部が取り組んだアンケートに対する3候補の回答の内、新ゴミ処理施設の部分を紹介します。

獅山 向洋 さん

彦根愛知犬上行政組合は、トータルコストが最も低いことを主たる理由として彦根市清崎町西清崎地区をゴミ焼却施設移転候補地に決めましたが、この候補地は敷地全体が浸水想定区域であり、敷地の一部が土石流危険渓流にかかっているうえ、ボーリング調査の結果では、高額の地盤改良費を要する可能性があり、トータルコストの面でも適切と言えないので、当初から反対しています。

さらに、彦根市が財政難に陥っているのに、この処理施設のために概算38億円も費やして荒神山トンネルを含む市道を建設しようとしており、荒神山周辺の環境破壊とさらに財政を圧迫することになるので、ごみ処理施設移転計画および市道計画に反対します。

和田 裕之 さん

ゼロベースで考えます。費用が一番低いとして選ばれたはずの清崎町に、38億円もかけて神聖な山に穴を開ける工事をする意味がわからない。迂回路で30秒ぐらいしか変わらないはず。癒着や裏合意をリセットし、彦根市民の負担が最小限になるよう、完全ゼロベース、しっかりと情報を公開して、市民の皆様と一緒に決めていきたいと思います。

大久保 たかし さん

現在の焼却施設は県内で最も古く全面改築が必要ですが、施設内での改築は用地不足で移転が必要です。また、リサイクルを更に進めるにしても、焼却による処理ではCO2排出だけで効率が悪く、発電や温水利用ができる施設を整備することで、地域の福祉向上を図りたいと考えます。その為には一定量のごみを燃料として確保する必要があることから彦根愛知犬上地域で建設することが妥当です。これまで、建設予定地を決めるため、時間をかけ丁寧に議論を重ね、圏域内で中央付近に位置する西清崎が候補地となった次第です。今後も広域行政組合を構成する市町で、住民の皆様のご理解とご協力をお願いし新たなエネルギー回収施設整備を進めてまいります。

▲環境影響評価方法書より

甲良民報

2021年4月25日　820号

発行責任：日本共産党甲良町議員

連絡：甲良町在士373（西澤）

Tel：38-4949　Fax：38-2242

ご相談・ご要望をどうぞ。　☆くらし・税金・教育などの相談は　**西澤伸明** 38 - 4949　**丸山光雄** 38 - 3123

◎日本共産党の見解を紹介します。メール　shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp　ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】